

仁荷大学での留学を終えて

人文学部 村上 純夏

私は、2014年3月から12月まで韓国の中大にある仁荷大学で交換留学生として生活していました。私の韓国留学の主な目的は、韓国語能力の上達と韓国文化の中で暮らすことでした。実は高校生の時から韓国に留学したいと思っていて、新潟大学に進学した理由には、初修外国語の中に朝鮮語があり、韓国の大学と協定を結んでいるということが挙げられました。このため、入学してすぐ国際課のほうに相談しに行ったり、韓国に留学したことのある先輩のお話を聞きに行ったりしました。

私は2年前期から留学に行きましたが、交換留学としては時期的に早いほうではないかと思います。そのため留学初期はこんなに早く留学したことを後悔することもありましたが、すべてを終えた今は2年前期から留学して良かったと思っています。

私は前期、主に韓国語の授業と外国人向けの韓国文化や歴史の授業を履修していました。初級韓国語の授業は英語で教わったのですが、普段日本語から韓国語を勉強しているので、英語から韓国語を教わるのは新鮮で面白かったです。

後期は仁荷大学付属の言語教育院(通称語学堂)にも通いました。平日は毎日朝9時から13時まで授業を受けて、その後大学の授業に行くという感じでした。毎日9時からというのは正直楽ではなかったのですが、語学堂のおかげもあって韓国語能力試験で希望以上の級を取得することもできたのでよかったです。また、後期は韓国人学生に交じって教養科目的ダンススポーツ(社交ダンス)の授業も履修しました。留学生がほとんどいない授業に1人で飛び込んでいくのにはとても勇気がいりましたが、結果的に友達もできたしその友達と日々会話することによって韓国語も上達していったと思います。留学生向けの授業だけでなく、一般学生向けの授業を一つでもいいから履修してみることをおすすめします。教養科目の中にはダンススポーツはもちろん、護身術、ヨガといった新大では目にすることのない授業もあるので履修登録するときは結構ワクワクしました。

韓国では仁荷大学の寮で生活していました。基本的に4人部屋なのですが想像していたよりもそんなに大変ではなかったです。他の国の人と同じ部屋になれば、韓国語あるいは英語能力の上達にとても良い環境になつたし、その他の言語にも触れることができました。

韓国料理と言ったら辛いというイメージがあると思いますが、あながち間違ってはいないと思います。なかなかさっぱりした料理にたどり着けず苦労したこともありましたが、だんだん濃くて辛い料理に慣れていきます。実際、最初は辛くて食べられなかった料理も帰国するころには普通に食べられるようになりました。韓国ではチキンと言ったらビール、ビールと言ったらチキンみたいなところがあります。大学の裏門だけでもいろんなチキンのお店があって価格も手頃でよく食べていたし、韓国にはカフェが多いのでご飯を食べたらカフェに行くという流れが定着していました。

留学当初、1年間の留学は長いかもしれないと思っていたが、終わると本当に1年で良かったと思いました。私は今回の留学で初めて韓国に行ったので、余計何もかもわからず途方に暮れてしまつたし、周りの人よりも遅れていることも分かって、焦って自分が情けなくなってかなり落ち込みました。しかし現地の生活に慣

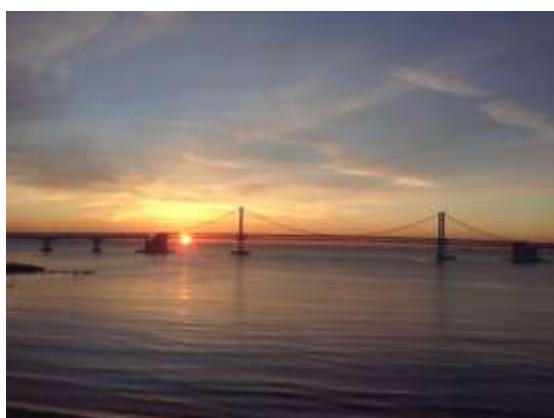
れればどんどん見え方が変わってきて楽しくなってきました。周りとの競争心ももちろん必要ですが、留学は自分との戦いでもあると思って、あくまで自分のペースで、適度に焦って前に進んでいければいいという考えで留学生活を乗り越えることができました。生活に慣れるだけなら半年でもいいと思いますが、語学力の上達であったり、いろんな考え方へ接したりしたいと思うのであれば、1年の留学をおすすめします。

また、せっかく留学するならソウルだけでなく韓国各地を旅行するのもいいと思います。韓国は日本ほど広くないので案外簡単にいろんなところに行けるし、交通費も安いです。おすすめは釜山(プサン)と全州(チョンジュ)です。済州島にも行きたかったのですが残念ながら行けませんでした。

最後になりますが、国際課の皆さん、人文学部の学務の皆さん、お世話になりました。何から何までいろいろサポートしていただき、本当に助かりました。そして、仁荷大学で出会った日本人留学生の皆さん、一緒に生活できて楽しかったです。ありがとうございました！



留学の最後に撮った、1年間共に過ごした日本人留学生 6人



釜山に旅行に行ったときに見た日の出



初めて食べたユッケ